

川越市立川越小学校蔵 写真提供埼玉県立文書館

川越小学校図

この川越小学校図は、明治15年(1882)8月に五姓田芳雄によって描かれたものです。校舎はコの字型で、中央部は二階建となっています。残されている間取り図によると左右の建物が教室で、中央が事務室や教員控所などになっており、二階は御影奉置所でした。

川越小学校は本町(旧西大手門跡)に新築された学校で、明治15年7月23日に上棟祭が、翌24日には開業式が行われています。この川越小学校の開校により、それまでの喜多町広済寺内にあった北学校(明治6年開校)と鍛冶町法善寺内にあった鍛冶学校(明治6年開校)が廃され、川越小学校に統合されました。今日言うところの通学区は、南町・本町・鍛冶町・高沢町・江戸町・多賀町・喜多町・志多町・宮元町・神明町・石原町で、その児童を対象としていました。川越小学校はその後、明治19年に普育学校(明治23年に川越小学校と改称)、明治26年に川越尋常小学校、明治35年に川越北尋常小学校、昭和2年(1927)に川越第一尋常小学校、昭和16年に川越第二国民学校と名称が変わり、戦後の教育改革により昭和22年に川越市立川越第二小学校、そして昭和35年に川越市立川越小

学校となりました。

筆者の五姓田芳雄(1864 - 1943)は本名倉持子之吉といい、明治13年に五姓田芳柳(画家、1827 - 1892)の養嗣子となり芳雄と改名しました。明治18年(一説には明治20年)に芳柳の号を継承し、二世五姓田芳柳を名乗りました。

五姓田芳雄が「川越小学校図」を描いた経緯は不明ですが、氷川神社祠官山田衛居の『朝日之舎日記』明治15年6月17日の条には、五姓田芳柳(初代)が鍛冶町法善寺に滞在していたことが記されています。日記には「五姓田芳柳ト云半油画工老人ヲ法善寺ニ訪。此人油画風ノ肖像ヲ絹ニ画ク事ヲ功夫して、写真より画ニ写すなり」とあります。おそらく芳雄も芳柳に同行して川越に滞在していたと考えられます。芳柳の滞在は、依頼されて明治天皇の肖像を描くためであり、その肖像は新築になった川越小学校の御影奉置所に掛けられました。衛居の日記には「楼上ニハ五姓田氏筆之聖上ノ御肖像ヲラク」とあります。この明治天皇像は、戦後のいつの頃からか川越城本丸御殿内に保管されており、現在は市立博物館で収蔵しています。

古文書を読み解く ～沢庵和尚の書状をめぐる～

はじめに

川越市立博物館に寄贈された太田家文書の中に江戸時代初期の沢庵和尚（1573～1646）の書状があります。沢庵和尚は天正元年（1573）12月1日但馬国（兵庫県）出石に生まれました。父は秋庭能登守綱典といい、出石城主山名祐豊（宗詮）（1510～1580）の家臣でしたが、天正8年に山名氏が豊臣秀吉に滅ぼされたため、帰農したといわれています。沢庵和尚は10歳の時、出石の浄土宗唱念寺に弟子入りし、14歳の時に浄土宗から禅宗に転じ、慶長14年（1609）37歳の時に大徳寺153世の住持になります。しかし、大徳寺のような名利の住持として都に暮らすことは性に合わないと、出世（禅宗で寺院の住職になること）の儀を滞りなく執り行なった後、わずか三日で大徳寺から退出します。

太田家文書の沢庵和尚の書状は、太田家初代の太田主膳に宛てたもので沢庵和尚の真筆と思われるものです。今では名前が摩滅していますが、花押は沢庵和尚のもので、太田家では沢庵和尚の消息（手紙）として軸装され、箱書きにもその旨を記し大切に伝来されてきました。書状の差出日も摩滅してははっきり分かりませんが、その内容から寛永4年（1627）に発生した紫衣事件の頃のものと考えられる書状です。この書状を通じて太田主膳と沢庵和尚との交流、沢庵和尚の人となり、紫衣事件の側面をみていきたいと思えます。

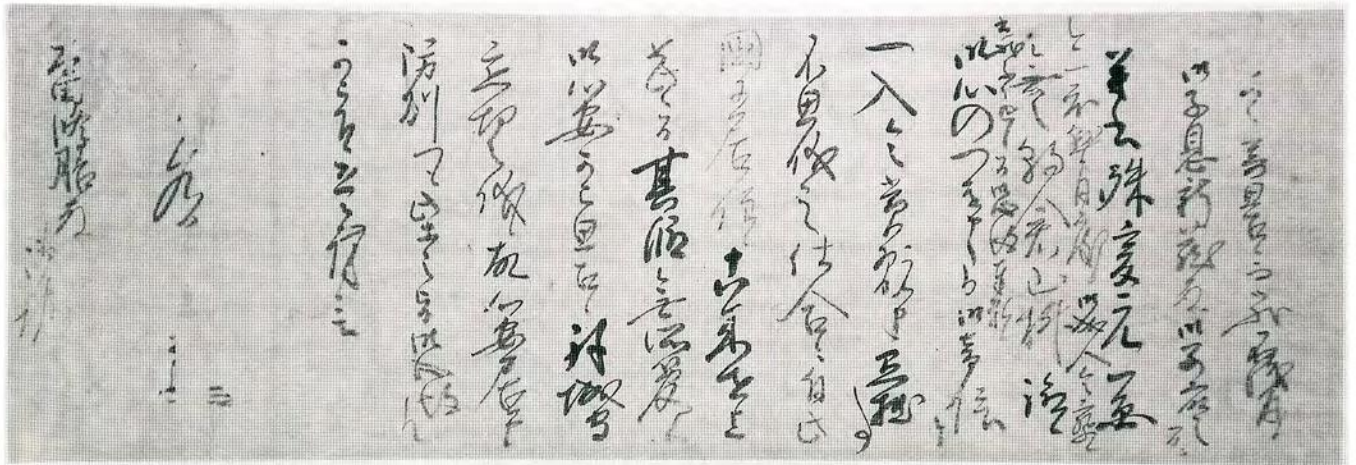
1. 沢庵和尚の書状

書状の書式は紙の右側（袖）は掌一つ分（約10センチ）くらいあけて書き出し、紙の左側（奥）は日付や署名、宛名分を残して本文を書き終えるため、書き残したことは最初に戻って紙の右側の余白部分に少し下げて小字で書き続けます。その部分の文頭には「尚々（猶々）」と書くことが多かったので、「尚々（猶々）書」とか「追而書」等といわれています。また余白部分に書ききれなかった場合は、最初に書いた部分の行間にまで続けることもあります。この沢庵和尚の書状は「尚々書」の典型的な例といえます。したがって、この書状は右から順番に読んでいったのでは意味が繋がりません。最初に出てくる「尚々」の部分は本文が終わってから戻って読みます。では、行の頭

に付けた数字の順に読んでいきましょう。

書状の大意は「太田修膳（主膳）から手紙とともにこの辺一帯にはない朝倉山椒を頂戴し、気の利いた便りとひととき味わっていただきます」というお礼と近況を知らせる手紙です。「私は不思議と仕合せでこの国に居住しております。古来から世の中はこの様である間は権限による支配の及ぶ範囲ではないのでご安心あそばして下さい。殊に城主が決定のことなので安心して居ります。防州（松平周防守）へもこれらの趣意をお伝えください度謹んで申し上げます。尚、お志によりお手紙は親交が並ひとおりのものではないと存じます。ご子息新蔵殿が御若衆の間に今一度御目に掛かり度と存じます。御成人とおしはからせるような書状は差し上げないので御心得願ひ申し上げます。」というものです。

「朝倉山椒」は兵庫県の朝倉という所で多く栽培されていた大粒の香りのたかい山椒です。「この辺一帯にはない」ということは、近畿一帯に沢庵和尚が居住していないことを物語っています。『沢庵和尚年譜』にもありますように、沢庵和尚は但馬、堺、岸和田、京、奈良など近畿一帯を頻りに移動していますが、遠方に居住したのは江戸と出羽（山形県）上山だけです。山形県上山は沢庵和尚の流罪地です。沢庵和尚が江戸にいたのは二代将軍秀忠に紫衣勅許の件で召喚されて調べをうけ、上山に流罪が確定した時と、その後赦されて江戸に留め置かれた時、三代将軍家光の執拗な求めに応じて品川の東海寺に居住していた時だけです。紫衣事件の頃は家光が将軍になっていましたが、実際は大御所秀忠やその側近が政治の実権をにぎっていましたから、秀忠が死去するとすぐに赦され、沢庵和尚は江戸に呼び戻されることになります。「城主が決定」は寛永6年（1629）7月25日に流罪の判決が下り、同月28日付で徳川幕府から出羽上山藩土岐山城守頼行に沢庵和尚の身柄お預けが命じられたことを指し示していると思われます。文面からも沢庵和尚の身を心配している太田主膳に、「不思議とこの国に仕合に居住しているので、安心して下さい」と伝えてあります。以上の理由から、この書状は紫衣事件の頃の書状と推察されます。では、紫衣事件についてもう少し掘り下げてみることにしましょう。



沢庵和尚の書状（川越市立博物館蔵）

(釈文)

- ① 尚々寄思召候而御状不浅存候、
- ② 御子息新藏殿御若衆之間ニ
- ③ 芳書殊爰元一円
- ④ 今一度懸御目度候、御成人令察候
- ⑤ 二無之朝倉山椒給候、
- ⑥ 書状不進候間御心得奉願候、
- ⑦ 御心のつき申たる御音信ト
- ⑧ 一入令賞翫申候、愚拙事
- ⑨ 不思議之仕合ニ付此
- ⑩ 国に居住候、古来世上
- ⑪ 如此候間其段無所管候、
- ⑫ 御心安可被思召候、殊城守
- ⑬ 定切之儀候故心安居申候、
- ⑭ 防州へも此等之旨御心得にて
- ⑮ 可被下候、恐々謹言

「 〇九日
(宗彭) (花押)

太田修膳殿
御報

(読み下し)

- ① 尚々思召に寄り候て御状
浅からず存じ候。
- ② 御子息新藏殿御若衆の間に
- ③ 芳書殊に爰元一円
- ④ 今一度御目に懸り度候。御
成人察せしめ候
- ⑤ 二に之無き朝倉山椒給わり
候。
- ⑥ 書状進ぜず候間、御心得願
い奉り候。
- ⑦ 御心のつき申たる御音信と
- ⑧ 一入賞翫せしめ申候。愚
拙事
- ⑨ 不思議の仕合に付、此
- ⑩ 国に居住候。古来世上
- ⑪ 此の如く候間、其段所管無
く候。
- ⑫ 御心安く思召されべく候。
殊に城守
- ⑬ 定め切りの儀候故、心安く
居り申し候。
- ⑭ 防州へも此れ等の旨御心
得にて
- ⑮ 下されべく候。恐々謹言

「 〇九日
(宗彭) (花押)

太田修膳殿
御報

2. 紫衣事件

慶長18年(1613)徳川幕府は天皇の祈願によって建立された勅願寺の大徳寺、妙心寺、知恩院、泉涌寺等の住持職に対して、朝廷の勅許を受ける前に幕府に告知することを定めた「勅許紫衣法度」を出しました。この法度は幕府の支配圏外にあった朝廷の権威を、幕府の権力下におくことを意識して出されたものです。さらに、幕府は元和元年(1615)に「禁中並公家諸法度」、「大徳寺諸法度」、「妙心寺諸法度」等を制定して、朝廷や宗教教団を統制しました。天皇の詔で決められていた大徳寺や妙心寺の住職も幕府が許可を与え、命令に従わない者の紫衣(特別な高僧

や特定寺院の住持職が着用する紫色の袈裟)の着用を禁止しました。しかし、実際には幕府に申し出ることなく勅許されていたので、寛永3年(1626)上洛中の秀忠から大徳寺や妙心寺に紫衣を賜ることを厳禁する旨の口達^{くたつ}が言い渡されました。ところが、寛永4年4月に幕府の法度や厳命も無視して、大徳寺の正隠宗知^{しょうち}に対する紫衣勅許があったのを機に、幕府は同年7月、元和元年以降に紫衣勅許を受けた禅僧に対してはこれを取り消す等の禁制(諸宗法度)を出しました。大徳寺では沢庵和尚が筆を執って、玉室宗珀^{ぎょくしつそうはく}、沢庵宗彭^{そうほう}、江月宗玩^{こうげつそうがん}の署名入り抗弁書^{こうべんしょ}を京都所司代板倉重宗^{いたくらしげむね}に提出して反発しました。妙心寺や大徳寺でも託

び状を提出したのもいしましたが、幕府の命令に従わなかった大徳寺の沢庵和尚と玉室宗珀、妙心寺の東源慧等、単伝士印の4名が寛永6年に追放された事件を紫衣事件といいます。

徳川家康からの側近として、幕府の宗教政策には崇伝が深く関わっていました。紫衣事件の処分についても崇伝は厳科を主張しましたが、川越喜多院復興の僧としても知られる天海は軽罪を唱え、その主張が入られて、沢庵和尚等は遠島ではなく預かりという処分が決着がついたともいわれています。

3. 松平周防守康重の岸和田入封

太田主膳が仕えた松井松平家は徳川家康に仕え、度重なる軍功によって家康から松平姓を賜った松井忠次（後の松平康親）が家を興し、天正10年（1582）に康親は、駿河（静岡県）の三枚橋城の城主となり、翌年2月には郡代を命じられました。康親の跡を継いだ康重は、永禄11年（1568）に生まれていますが、家譜には「家康の侍女を懐妊三か月で康親に賜る」とあり、事実ならば康重は徳川家康の庶子ということになります。天正18年（1590）8月家康の関東入国に際して、康重は武蔵国騎西領（埼玉県）2万石を領し、太田主膳も4百石で康重に召抱えられました。関ヶ原の合戦後、慶長6年（1601）には康重は1万石の加増を受け、3万石で常陸国（茨城県）笠間を8年間領有しました。その後丹波国八上城（兵庫県）に転封、家康の命で近畿・中国・四国の大名の夫役で築城された、いわゆる天下普請の篠山城（兵庫県）も合わせて領有しました。幕府は元和5年（1619）に豊臣家臣の小出吉英を但馬国へ移し、代わって譜代の康重を泉南の拠点である岸和田に入封させました。

吉英の祖父小出秀政は豊臣秀吉の母の妹を妻にしていたので、引き立てられて文禄3年（1594）和泉国（大阪府）を領有しました。文禄9年秀政が死去すると但馬国出石6万石の城主、秀政の長男吉政が岸和田に入封、慶長18（1613）年2月吉政死去にともないその子吉英が出石から入封しました。吉政の葬儀・法事は子息吉英や吉親の招きによって、沢庵和尚が仏事を執り行なっています。沢庵和尚の父は主君山名氏滅亡後帰農したといわれていますが、沢庵和尚の実弟秋庭半兵衛は小出氏に仕えていたと思われます。沢庵和尚も書簡集をみると小出吉英に仕えているような気持ちで接していたことが感じ取れ、沢庵和尚が小出氏と密接な信頼関係で結ばれていたことがわかります。

沢庵和尚と所縁の深い小出氏の跡をうけて、松平周防守康重は岸和田へ入封することになったわけです。

4. 太田主膳と沢庵和尚の交流

太田主膳が沢庵和尚と交流を持つことができたのは、岸和田城引渡し時の小出氏側との接触によってでしょうか。小出吉英と沢庵和尚が親密の関係にあったことは前記の通りですが、松平康重と同じ領地を有した小出氏の仲立ちで沢庵和尚との交流が始まったと考えるのが妥当でしょう。当時、大徳寺の住持に出世した沢庵和尚の名声は非常に高かったようで、細川忠興や浅野幸長等の諸大名からの招請が多くありました。沢庵和尚はそれらを固辞しましたが、沢庵和尚に接触してみたいという気持ちは太田主膳や周防守康重にもあったのではないのでしょうか。

太田家文書の中に元和9年（1623）頃と推測される玉室宗珀の書状があります。その書状は玉室宗珀が太田主膳の子息新蔵に宛てたものです。玉室宗珀は大徳寺の僧で、後に紫衣事件で沢庵和尚等と流罪になり、陸奥棚倉藩（福島県）へ預かりになった人物です。書状の内容は味醂酒1樽を贈られた礼状ですが、沢庵和尚を介しての大徳寺の僧との交流かと思われるものです。また太田家には松花堂昭乗（能書家として知られ、和歌茶道をたしなみ茶室松花堂を建てて幽栖した）が太田主膳に宛てた書状も残されています。差出日はありませんが、その書状の中で昭乗は、沢庵和尚のお見舞いの件に触れて、手透きの時にお見舞いに行くことを申し入れています。松花堂昭乗と沢庵和尚との親しい交流は良く知られているところですが、太田主膳がその二人の中に入って親しく交流していたことが伺えるものです。沢庵和尚を介して交流の輪が広がっていったことが推測されます。



春雨庵（写真：上山市教育委員会提供）

太田家に残されている沢庵和尚の書状は、周防守康重が幕府の罪人として紫衣事件裁定中の沢庵和尚に書状を出すのは憚られるので、太田主膳が代わりに沢庵和尚のもとへ書状を送り、沢庵和尚の様子を伺った時の返書ではないでしょうか。沢庵和尚の書状の中で、「防州（周防守）へも趣旨を御心得くだされたい」と書き加えられているところからも推測できます。実際に沢庵和尚が上山へ流罪になって1年が過ぎた頃、周防守康重は沢庵和尚のもとへ手紙を添えて品物を届けています。沢庵和尚が、実弟秋庭半兵衛に宛てて配流中の様子を知らせた書簡の中に「此程きしのわたより人參候。十二月廿八日の日付にて、此正月廿二日に、此地へ参候。（中略）岸和田松平周防殿からも、各使者給候。色々心のつき候音信、小袖かみこ、此遠国まで、杉のはこに入給候。」（『沢庵和尚全集巻4』）と記された箇所があります。松平周防守から沢庵和尚の流罪地に手紙と共に小袖や紙子（紙製の衣服）が杉の箱に入れられて届けられたことが分かります。

太田主膳と沢庵和尚との交流は主君松平周防守康重を通じた交流から発展して、書状の中で「御息新蔵殿が御若衆の間に今一度御目に懸りたい」と沢庵和尚が述べるほど親しく交流していたようです。

おわりに

沢庵和尚は流罪に対して書簡の中で、（『沢庵和尚全集巻4』）「まっすぐなことを言って流罪になったが、名声だけでも末世に残れば満足に思う。心さえ塵に穢れなければ身の苦しみはなんでもない。」と語っています。また「流罪は武士の御国替と同じと思う」とも書いています。沢庵和尚は57歳の時に流罪になりますが、山形は冬の寒さが厳しい北国です。老体にはさぞおたえたことでしょう。沢庵和尚の身柄を預けられた上山藩主土岐頼行は22歳の若さでしたが、沢庵和尚を手厚くもてなしました。住居は縁周りを二重堀にして、風邪を引かないように、湯殿や便所は縁続きに行けるようにし、寝る所には大きな鹿の皮を下に敷き、下から冷えないよう気をくばり、何も不足のないように米、炭薪、塩噌などもたくさん城から運ばせました。土岐頼行は実の祖父のように沢庵和尚のことを気遣い、家臣にも殿様の祖父のように重々しく接することを命じました。

諸大名も幕府を憚ることなく見舞いの手紙や品々を沢庵和尚のもとへぞくぞくと届けました。これは、いかに沢庵和尚が人望を集めていたかを物語っています。



春雨庵（写真：上山市教育委員会提供）

紫衣事件による沢庵和尚等の流罪は諸大名ばかりではなく一般の人々の同情をも集めたようですが、逆に大徳寺の僧で無罪になった江月宗玩に対しては風当たりが厳しく、「降る雨に沢の庵も玉の室もながれてのこるにごり江の月」等の落書（『細川家記』）や「江戸味噌を二すりすりて一すりはみそかすばかりのこる江月」等の狂歌（『武江年表』）がもてはやされ、江月の墨蹟が捨てられたといわれます。沢庵和尚自身は江月の墨蹟を無罪にして、沢庵和尚が復興し堺にある南宗寺を託したいという思いが強かったことが書簡集にもみえ、実際の沢庵和尚の思いとは裏腹に、風評だけが一人歩きしていったようです。また、沢庵和尚等を流罪にした張本人と目された崇伝にも世間一般の厳しい評価がなされ、「大欲山氣根院僧上寺悪国師」（『細川家記』）と悪口されたといわれています。

太田家文書の沢庵和尚の書状は、1通の手紙から様々なことが読み取れる大変興味深い史料です。古文書を読み解く醍醐味を味わっていただけたことと思います。一般的に書状は私的なもので、書状を交した当人同士しか分からないことが多いものですが、この沢庵和尚の書状は歴史の一端まで垣間見られる非常にすばらしい史料です。

主要参考文献

- * 『沢庵和尚全集』 巧芸社
- * 『沢庵和尚年譜』 思文閣出版
- * 『沢庵和尚書簡集』 岩波書店
- * 『沢庵』 中央公論社 他

（古文書整理員 林 寿子）

館長就任にあたって

大野 政己

川越市立博物館は、市制 60 周年記念事業の一環としてその建設が計画され、平成 2 年 3 月に開館しました。博物館開館時の基本構想によれば、常設展示は「川越地方の歴史が総合的に理解できる」ように構成し、新しい資料の紹介や常設展示を更に深めるために、企画展等の開催が位置付けられました。また、川越地方にかかわるテーマで様々な講演会や講座を催すとともに、各種の印刷物を発行して博物館事業に対する理解を深めることも挙げられています。

当館ではこれらの基本構想に基づく活動を 19 年間地道に実践してきており、その蓄積は川越の市民文化の形成に寄与しているものと確信しているものですが、今後取り組まなければならない課題もいくつかあります。

その一つが常設展示リニューアルの問題です。当館の常設展示も開館以来大きな展示替えを行っていません。そのためリニューアルを求める声が多く出ていることも事実です。改めて博物館の常設展示について考えてみました。

常設展示は長期にわたって公開されるものであり、展示のテーマや資料が長期の公開に値しているかが絶えず問われています。しかしながら常設展示は、一度見学すれば充分であるというイメージがあり、そのため何度も足を運ばなくなるといった傾向もあります。また、博物館の歴史展示は難しいという感想を述べられる方もいます。それは展示してある資料が切り取られた歴史の一コマだけであり、その歴史的背景の知識なくしては、理解しづらいということによると思います。

それでは、博物館における常設展示とはどういう存在なのでしょうか。それは当たり前のことかもしれませんが、博物館活動の中心に常設展示があると

ということです。常設展示を深めるようなテーマでの企画展の開催や新資料の紹介や研究、そして常設展示に関する様々なテーマでの講座や講演会の開催、各種の出版物の刊行など、これらの博物館活動が結びついて常設展示の理解を促し、見る人に新たな発見の機会を与えてくれます。こうした有機的関係が打ち立てられれば、常設展示の魅力も増してくるのだと思います。川越市立博物館の展示リニューアルの方向性も、来館のたび新たな発見の機会を提供できるような常設展示の構築、これにかかっていると思います。

館内で展示解説員が入館者に展示の解説をしている姿や子どもたちが展示室で学習している様子を日々見ていると、充実した常設展示があってこそ、学校との連携事業やさまざまな博物館活動が展開できるのだと実感しております。

博物館発展のため全力で取り組んで参りますので、これからもより一層の御支援御協力をお願い申し上げます、御挨拶といたします。



●平成 20 年度●

利用状況

博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館

博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館とも、平成 20 年度中に、多くの皆様にご来館いただき、誠にありがとうございました。今後も、より多くの方に御満足いただけるよう、常設展示・企画展示の充実を図っていきたく考えています。

皆様の御来館を心よりお待ちしております。

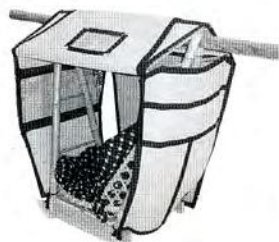
| 施設区分 | 年間入館者数 | | | | 1日平均入館者数 | 開館日数 |
|-----------|--------|------------|-----------|--------|----------|------|
| | 一般 | 大学生 高校生 | 中学生 以下 | 合計 | | |
| 博物館 | 60,336 | 2,610 | 31,872 | 94,818 | 328 | 289 |
| 川越城本丸御殿 | 61,547 | 1,850 | 16,580 | 79,977 | 473 | 169 |
| 川越市蔵造り資料館 | 57,876 | 2,758 | 22,749 | 83,383 | 279 | 299 |

※川越城本丸御殿は、平成20年10月21日より保存修理工事のため休館中

Information

平成 21 年度の博物館行事です。(12 月まで)

講座・教室 etc.



●…一般向け事業 開催日 講座名 内容 申込開始日
○…子ども向け事業

| | |
|------|--|
| 7 月 | <p>第19回収蔵品展 『サツマイモ』</p> <p>○11(土) 土曜子ども体験 あいぞめでハンカチ作り 7/1</p> <p>○18(土) 土曜子ども体験 ミニまこも馬作り 7/2</p> <p>○25(土)・26(日) 昔の遊び 申込不要</p> <p>○29(水) 夏休み子ども体験 街並み見学ツアー 7/4</p> <p>●7/19・26・8/2(日) 古文書講座 古文書からみた川越近郊の農村のようす 7/3</p> <p>○31(金) 夏休み子ども体験 ミニ縄文土器作り 7/5</p> |
| 8 月 | <p>第19回収蔵品展 『サツマイモ』</p> <p>○1(土) 夏休み子ども体験 うちわ作り 7/7</p> |
| 9 月 | <p>第19回収蔵品展 『サツマイモ』 ～23(水)</p> <p>○12(土) 土曜子ども体験 十五夜の話とお月見だんご作り 9/1</p> <p>○19(土) 土曜子ども体験 かごをかついでホイサッサ 当日先着</p> <p>●13・20・27(日) 博物館歴史講座 さつまいもの力 9/2</p> |
| 10 月 | <p>10(土)～ 第33回企画展 『川越城本丸御殿の杉戸絵と船津蘭山』</p> <p>○10(土) 土曜子ども体験 手作りおもちゃで遊ぼう 当日先着</p> <p>○24(土) 土曜子ども体験 布ぞうり作り 10/2</p> <p>●17(土) 野外博物館教室 川越まつり～山車曳き体験～ 10/1</p> <p>○31(土) 子ども博物館教室 はにわ作り 10/3</p> |
| 11 月 | <p>第33回企画展 『川越城本丸御殿の杉戸絵と船津蘭山』 ～15(日)</p> <p>●8・15・22(日) 博物館歴史講座 川越の近代 10/20(往復ハガキ必着)</p> <p>○21(土) 土曜子ども体験 和楽器体験～三味線・琴に挑戦～ 11/4</p> <p>●3(祝) 民俗芸能実演 「老袋の万作」 申込不要</p> <p>○7(土) 土曜子ども体験 まが玉作り 11/1</p> <p>●28(土) 野外博物館教室 日本100名城 ～金山城趾を訪ねて～ 11/5</p> |
| 12 月 | <p>○12(土) 土曜子ども体験 たこを作ろう 12/1</p> <p>○19(土) 土曜子ども体験 お正月飾りを作ろう 12/2</p> |

※変更の可能性もあります。申込方法も含め、詳細については「広報川越」またはホームページを御覧ください。お問い合わせは博物館まで。

土曜子ども体験・昔の遊び・夏休み子ども体験は、午前10時～11時30分と午後1時30分～3時30分の時間帯で行います。また、9/12の土曜子ども体験は午後2時～4時の時間帯で行います。



まなびピア埼玉 2009 協賛事業

第 19 回收藏品展

サツマイモ

平成 21 年 7 月 25 日 (土) ~ 9 月 23 日 (水)

当館では、昨年閉館した市内のサツマイモ資料館から、資料を一括して寄贈いただきました。またこれまでも、芋せんべい屋の道具や石焼き芋屋のリヤカー等、サツマイモに関連した資料を市内外の皆様から頂戴しております。第 19 回收藏品展では、サツマイモ資料館から寄贈された資料を中心に、地誌、歴史、栽培、料理といった視点から、川越と縁の深いサツマイモの魅力に迫ります。



まなびピア埼玉 2009in 川越

第 33 回企画展「川越城本丸御殿の杉戸絵と船津蘭山」

平成 21 年 10 月 10 日 (土) ~ 11 月 15 日 (日)

川越市立博物館では、上記の日程で第 33 回企画展を開催いたします。この企画展では、川越城本丸御殿の杉戸絵を中心に、近世城郭御殿の障壁画の一部であった杉戸絵を展示します。また、本丸御殿の杉戸絵の作者、船津蘭山に焦点をあて、幕末の狩野派絵師、船津蘭山の作品を紹介します。



花鳥麝香猫図杉戸絵 (ふじみ野市上福岡歴史民俗資料館蔵)

利用の御案内

◆入館料

| 区分 | 博物館 | 川越市蔵造り資料館 | 共通入館(観覧)券 | | |
|------------|----------------|---------------|--------------|-------------------------|-----------------------------------|
| | | | ●博物館 ●美術館 | ●博物館 ●蔵造り資料館 ●美術館 | ●博物館 ●蔵造り資料館 ●美術館 ●まつり会館 |
| 一般 | 200円 (160円) | 100円 (80円) | 300円 | 370円 | 600円 |
| 大学生 高校生 | 100円 (80円) | 50円 (40円) | 150円 | 180円 | 400円 |

※()内料金は、団体[20名以上、1名につき]の場合

◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)

◆休館日 月曜日(休日の場合は翌日の火曜日) ※平成21年10月19日は開館

第4金曜日(休日を除く) 年末年始(12月28日~1月4日)

館内消毒(6月下旬) 特別整理期間(12月下旬)

*開館時間・休館日は、博物館・川越市蔵造り資料館とも原則同じ

(館内消毒・特別整理期間は博物館のみ休館、蔵造り資料館は1月2日から開館)

交通案内

東武東上線・JR川越線川越駅より
または西武新宿線本川越駅より、
・東武バスにて「蔵のまち経由」乗車札の辻バス
停下車徒歩8分、または「小江戸名所めぐり」
乗車博物館前バス停下車徒歩0分
・イーグルバスにて「小江戸巡回バス」乗車博物
館・美術館前バス停下車徒歩0分
※御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用く
ださい。



川越城本丸御殿は保存修理のため、平成20年10月21日から平成23年3月(予定)まで休館しています。

平成21年 7月

8月

9月

10月

11月

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | | | | | |

※●印は、2館休館(博物館、蔵造り資料館)

発行日 平成21年7月20日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1 TEL 049-222-5399 FAX 049-222-5396

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp

ホームページ http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/